

## 1 成人用ワクチン手帳の配布

～医師会の提案により実現、ワクチンで防げる病気があります～

### 市長

このたび横須賀市では、ご列席をいただいている高宮医師会長からご提案いただいた「成人用ワクチン手帳」をお配りすることになりました。まず、背景からご説明いたします。子どもの頃には、母子手帳により予防接種の記録を管理していましたが、大人になってから必要なワクチンについては、「受けたかどうか分からない」「記録が残っていない」という声を多くいただいているところです。例えば、肺炎球菌、帯状疱疹、新型コロナウイルス、インフルエンザは、大人になってからこそ、しっかりと備えておきたい病気です。この度、ご列席いただいている高宮医師会長からお話をいただき、大人にも、ワクチン接種の記録をしっかりと管理できるように、自分の接種歴を分かりやすく記録できる、「成人用ワクチン手帳」を作成しました。この手帳があれば、「自分はどのワクチンを打ったのか」「次はいつ接種すればよいのか」がひとめで分かり、かかりつけのお医者さんとも情報を共有しやすくなります。まさに、ご自身の健康を守る頼もしいパートナーとなるはずです。この「成人用ワクチン手帳」の取り組みは、県内初の取り組みであり、高宮会長からご提案を、大変ありがとうございます。横須賀市が目指すのは、「健康がすぐそばにあるまち」です。この「成人用ワクチン手帳」が、市民の皆さんの健康づくりに役立ち、未来の安心につながっていくことを願っています。是非、積極的に活用していただき、ご自身と、大切なご家族の健康管理にお役立ていただきたいと思っています。コロナ禍の時から、市民の健康を守るため、医師会さんとは、がっちりとスクラムを組み、様々なことに臨んでまいりました。今回、新たに横須賀市と医師会さんが、力を合わせて進める「成人用ワクチン手帳」をどうぞよろしくお願ひいたします。なお、ワクチン手帳の制作は、先日、連携協定を締結した、グラクソ・スミスクライン社さんに、ご協力いただいております。私からは以上です

### 横須賀市医師会：高宮会長

医師会といたしましては、成人用のワクチン手帳を以前から提案してまいりました。メーカーの協力を得て予想よりも早くでき上がり、いま、実際に使っております。市民の反応は最後にお話しいたしますが、まず、お手元のワクチン手帳をご確認ください。

まず、成人が受けられるワクチン16種類が書かれています。その後に8種類のワクチンが書いてあり、続いて、その他のワクチンが記載できるようになっております。これらの中で、先ほど市長からお話がありました4つのワクチン、新型コロナウイルス、インフルエンザ、帯状疱疹、肺炎球菌、これらは定期接種で、特に大切なワクチンであり、利用が多いと思いますので、定期接種になっているワクチンを中心に説明したいと思います。

（資料を用いて説明）

まず、新型コロナウイルスは、インフルエンザと同じ5類感染症になりましたが、致死率はかなり違っています。新型コロナウイルスはインフルエンザの10倍から15倍の致死率です。新型コロナウイルスのワクチンの接種が開始されたのは、第4波から（2021年4月ごろ）です。次の第5波から効果が出ています。致死率は、第4波から第5波では5分の1、第5波から第6波では2分の1、第6波から第7波ではさらに2分の1となり、第4波と第7波を比べると20分の1に致死率が下がっています。

次にワクチンの有効率です。ワクチンの有効率は下がってはいるものの7割以上あります。インフルエンザのワクチンの有効率に比べてコロナのワクチンの有効率は高く、発症予防効果だけではなく後遺症の予防効果もあります。ただし、課題としては、7回目までの接種は無料でできましたが、昨年の8回目の接種から自己負担が発生しています。昨年度は3,000円、今年度は5,000円です。

昨年度は3,000円でしたが接種率が激減しました。今年度はさらに自己負担額が上がったので、接種率が心配です。1回目から7回目は特定臨時接種であり、無料で接種できました。しかし、昨年度の8回目は定期接種となり、接種率は約20%でした。

資料のグラフでは7回目の接種率が13%となっているため、8回目と比べると、接種率が上がっているのではないかと思うかもしれません、対象が全く違います。7回目までの特定臨時摂取の対象は生後6ヶ月からほぼ全年齢です。ただ、8回目の定期接種は65歳以上です。7回目までの特定臨時接種の際、65歳以上の方の接種率は8割から9割でした。8回目は約4分の1になっています。以前は、欧米よりも接種率は高かったのですが、8回目に関しては、欧米では50から60%で、我が国では、その3分の1程度にとどまっています。

次にインフルエンザです。新型コロナウイルスが5類感染症に移行してから、新型コロナウイルスは夏と冬、年2回の流行が見られます。これに対してインフルエンザの流行は冬場です。昨年の年末年始の定点あたり報告数は64で、観測史上、一番インフルエンザが流行しました。この時は横須賀市の救急医療センターに1日900人の患者さんがいらっしゃいました。最近の流行ではコロナの感染者数は下がってきており、インフルエンザが少し上がってきています。定点報告数が「1」を超えると流行開始となります。いま「1」を超えてきております。例年に比べて今年のインフルエンザの流行は早いと思います。インフルエンザのワクチンは有効率が高いA型のH1N1タイプでも40から60%。これは昨シーズン流行したタイプです。今シーズンもおそらくこのタイプが流行すると考えられています。

次は帯状疱疹です。50歳以上になると急に帯状疱疹の発生が増えます。神経痛は非常に強く、1年以上続くこともあります。また発生する場所によっては最悪失明することもございます。帯状疱疹のワクチンは、生ワクチンと不活化ワクチンの2つがあり、接種する仕方も回数も違います。不活化ワクチンの方が発症予防効果も高く、予防の期間も長いです。帯状疱疹ワクチンの定期接種は65歳以上です。以前の肺炎球菌のワクチンと同じように5年間の経過措置がありますが、65歳、70歳、75歳、80歳と5歳刻みで接種が行われます。生ワクチンと不活化ワクチン両方のワクチンが対象です。負担金は、生ワクチンは3,000円、不活化ワクチンは1回7,000円ですので2回やると14,000円かかります。不活化ワクチンの方が効果は高いです。

次に肺炎球菌です。肺炎の死亡者のほとんどは70歳以上で、原因としては肺炎球菌が最も多いです。肺炎球菌ワクチンは15価、20価とありますが、高齢者に適用されているのは23価のワクチン、ニューモバックスです。発症の予防効果は4割の発症減少で、負担金は3,000円となっています。

次にRSウイルスです。RSウイルスは定期接種ではありません。なかなかRSウイルス、特に成人のRSウイルスというのは、聞きなれないかもしれません、小児科にとっては非常に馴染みがあり、2歳までにほぼ100%のお子さんがかかります。特に乳児期にかかると重症化しますが、2歳以後も何回もかかり、2回目、3回目になるとほとんど風邪のような症状です。最近分かってきたことで、高齢者がかかると再び重症化します。60歳以上の致死率はインフルエンザとほぼ同じです。昨年、新しいワクチンが発売されました。気管支炎や肺炎の予防効果は8割以上です。ただこれは任意接種で、金額は医療機関によってまちまちですが、3万円程度かかります。このRSウイルスに関しては治療がなく、ワクチンで守るしかありません。その他の4つの疾患に関しては治療薬があります。ただ、治療して治ったとしても高齢者は1回かかると虚弱になります。老化が進む、認知機能が著しく弱ることがありますので、まずは何よりもかかるのが一番ということでワクチンが推奨されています。そのためにこのワクチン手帳を利用していただければと思います。私からは以上です。

## ■質疑応答

### 記者

この手帳に記録することでどういうメリットがあるのか、分かりやすく教えてください。

### 横須賀市医師会：高宮会長

このワクチン手帳は、医療機関が記入します。神奈川県内の自治体でワクチン手帳はありません。全国では1つの市と1つの町でワクチン手帳があります。そこではワクチン手帳に自分で記載する

ように書いてありますが、これは高齢者にはなかなかハードルが高いと思います。そのため横須賀では医療機関が書き、ロット番号はシールがありますのでそれを貼った方が正確だと思います。接種に来たときに他のワクチンもあることを市民の方に訴えることも一つだと思います。このワクチン手帳を見て、こんなワクチンもあるのだなと分かります。

先ほど最後に市民の反応をお伝えすると申しあげました。現在、実際にワクチン手帳を使っています。そして、いま、今年度のインフルエンザと新型コロナウイルスのワクチン接種が始まっているタイミングです。市民の方にはこのようなものが本当にあって助かったと大変好評を得ております。ただ単にこれを渡すだけではなく、横須賀市のワクチン接種率が上がることが大事だと思っています。ワクチンを打つ側も、ワクチンのことをもっと知るために、医師会では12月13日に学術シンポジウムを行います。今年はこの成人、高齢者の定期接種の4つのワクチンを取り上げたいと思っています。また3月に、毎年市民公開講座がありますが、それも同じテーマで行い、市民の啓蒙に努めたいと思っています。

### 記者

ワクチンを接種したら、病院が記録してくれる取り決めになっているということですね。

手帳に記録することで、自分が、いつどのようなワクチンを打ったのかが分かるとのことだと思います。それはどのような効果があるとお考えでしょうか。

### 横須賀市医師会：高宮会長

例えば、皆さんの中にも新型コロナワクチンを受けている方がいると思います。しかし、医者ですら、今まで何回受けましたかと聞くと、なかなか答えられる人がいません。時間がたつてしまうと効果が落ちてくる可能性もあります。接種したのがもう3年前だね、4年前だねと確認ができると思います。あとは先ほど言ったように、こんなワクチンがあるのだとの啓蒙にもつながると思います。

### 記者

そうすると、一種のカルテと言いますか、おくすり手帳のようなものということですね。

本県では初めて、全国では一市一町とのことでしたが、どこでしょうか。

### 横須賀市医師会：高宮会長

山口県の柳井市と茨城の阿見町です。阿見町は今年の9月からだったと思います。

### 記者

いま、横須賀市内で既に活用されているとのことでした。何人ぐらいが持っているのでしょうか。

### 横須賀市医師会：高宮会長

予防接種を行う全医療機関です。

### 記者

医療機関で配布しているのでしょうか。

### 横須賀市医師会：高宮会長

そうです。

### 記者

医療機関で配布して、実際に何人の方がこれを持っているのでしょうか。

### 横須賀市医師会：高宮会長

それはまだ始まったばかりなので分かりません。

### 記者

市内の医療機関はどのくらいあるのですか。

**横須賀市医師会：高宮会長**

ワクチンを扱っているのは、約 200 か所です。

**記者**

そこで実際に接種する人にはこれを渡しているのですね。

**横須賀市医師会：高宮会長**

そうです。それと、帯状疱疹のワクチンの接種券を来年の 3 月お送りしますが、その時にこのワクチン手帳と一緒に送ります。それによってだんだんと全員に行き渡るようになると思います。今は、インフルエンザやコロナのワクチン接種に来た人に渡しているので、そうではなく、来ない人にも渡るように、接種券と一緒に渡すようになります。

**記者**

それは、医師会が郵送するのでしょうか。

**横須賀市医師会：高宮会長**

市で郵送します。

**記者**

接種率を上げる意味合いもあるとのことでした。接種した人の感染率はどのような状況でしょうか。例えば、何回も接種したが、2 回新型コロナウイルス感染症になった人もいれば、1 回も打ってないけど、なっていない人など様々な方がいらっしゃいます。そのあたりはいかがでしょうか。

**横須賀市医師会：高宮会長**

はい、いらっしゃいます。感染のいわゆる確率ということはあると思います。ただ、先ほど申し上げましたように、確実にコロナの致死率がワクチンによって 20 分の 1 以上に減ってきてています。有効率、発症予防率というものもありますが、重症化予防率は入院するかどうかのところで決めています。それも 6 割以上ありますので、かかっているが、重症化は予防できているかもしれません。

**市長**

この物語はコロナ禍から始まりました。まだまだ陰謀説などいろいろありますが、致死率は 20 分の 1 に激減しました。横須賀は様々なことを医師会さんと取り組みました。ご承知のとおり、ワクチンを接種していただこうとさいか屋でも接種を行いました。横須賀はこれだけの効果があったと実証した一番大きなまちだと思っています。その延長でいかに市民の人たちを助けるかという流れの中で、ワクチンの接種が大切だと医師会さんとお話をさせていただきました。おくすり手帳と同じように診療にも診察にも役立ちます。こういうワクチンを打っていますと診療の前にお医者さんたちに分かっていただければ診療もうまくいくし、間違いがないだろうとのことで、ワクチン手帳を始めていこうという話になりました。高宮先生が会長になったからこそ、熱い思いがあって、コロナ禍の時も医師会さんといろいろなことに取り組んだので、そのおかげで様々なことができ、その延長線上にワクチン手帳があるとご理解いただければと思います。

**記者**

医者に手帳を見せることで、その医者は、このワクチンとこのワクチンを打っていると理解できると思います。この組み合わせは良くないといったことはありますか。

**横須賀市医師会：高宮会長**

特にありません。同時接種でも構いません。インフルエンザと新型コロナウイルスでも構いません。65 歳ですとちょうど肺炎吸菌や帯状疱疹がありますので、その接種は大事です。

## 記者

三浦半島の医療機関では「さくらネット（注1）」があるかと思います。共済病院では「さくポ（注2）」も始まりましたが、なかなか他の病院に広がらないという話を聞いています。アナログ方式の手帳が広がっていく一方で、「さくポ」のような先進的な取り組みも行っているかと思います。先々、このワクチン手帳について、「さくらネット」あるいは「さくポ」との連携をどのように考えていますか。

（注1）患者が病院や介護施設、調剤薬局などを利用した際の情報を連携する地域の医療機関等で相互に共有するネットワークシステム。

（注2）「さくらネット」と連携したスマートフォンアプリ

## 横須賀市医師会：高宮会長

マイナンバーカードからも分かるように将来的にはなるかもしれません、今はそれができない状況です。できるとしたら、子どものワクチン接種はできると思います。コロナの特定臨時接種までは分かれますが、コロナの定期接種になってからは全く情報が分かっていません。過渡期かもしれません、こういったアナログ的なものはまだまだ必要だと思っています。

## 記者

先々、「さくらネット」の協議会とリンクしたりなどいかがでしょうか。

## 横須賀市医師会：高宮会長

私も「さくらネット」の理事になっていますので、それは考えております。ただ、まだまだ「さくらネット」は完成したものではありません。いろいろと工夫して良いものにしたいと思っています。

## 記者

先ほどのマイナンバーのお話は、新型コロナウイルスの際に、接種証明がマイナンバーと紐づいていたことを指していらっしゃいますか。

## 横須賀市医師会：高宮会長

そのことではなく、マイナンバーカードで何が分かるかということです。いま、「マイナ救急」というものもございます。マイナンバーカードは制限もあり、良い面もあります。「さくらネット」と近いものもあり、一長一短になっています。両方とも良いものにしていきたいとは思っています。

## 記者

「さくらネット」は共済病院中心に取り組んでいます。一番の課題は加入率だとお聞きしました。今回の予防接種手帳を200医療機関で配布されるときに、一緒に「さくらネット」への加入のお話もされることはあるのでしょうか。

## 横須賀市医師会：高宮会長

「さくらネット」に関して定期的に勧誘しております。改めてということはございません。

## 記者

手帳のこととは関係ない予防接種そのものについて2点お聞きします。1点は新型コロナのワクチンは、いま、8回目が終わったところです。この8回目の予防接種について予防期間がすごく短くなっている人もいる、人によって予防期間が3種類ぐらいに分かれると聞いたのですが、短い人は打っても仕方ないのではないかと考える意見にはいかがお考えでしょう。

## 横須賀市医師会：高宮会長

短い人こそ打ってほしいと思います。ピーク自体は下がってきてますが、インフルエンザと違って年2回の流行があります。欧米では2回接種です。ご指摘があったように早く抗体が落ちる方もいらっしゃるので、理想から言うと、2回接種の方が良いと思います。ただ1回接種でも、なかなか我が国では接種率が上がっておりません。

## 記者

帯状疱疹の予防接種、65歳で打たなかった場合には、次打つのは70歳まで待たなければいけないのでしょうか。

## 横須賀市医師会：高宮会長

5歳刻みなので、そう思ってしまいがちですが、65歳は65歳だけです。あとは、任意接種です。自費でやらなければなりません。かなり誤解されている。肺炎球菌の時もそうだったのですが、いま、打つか考え中で、5年後にやろうかなと思っている方がいらっしゃいます。それを、医者の方に注意しなければならない、そしてまた市民への呼びかけもしたいと思っています。

## 記者

「さくポ」は共済病院でしか使えない、LINEの登録ができないという話を聞いています。広がる予定はあるのでしょうか。いま、共済病院で健康診断を受けたら、そのデータはLINEに反映されるが、サクポが他の病院に広がっていないため、共済病院の検診結果以外が他の病院に横展開がされていないと聞きました。

## 横須賀市健康部長

「さくポ」のアプリ展開は、いま始めたところです。医療機関の連携はできていると認識しております。

## 記者

健康診断結果の共有はいかがでしょうか。

## 横須賀市健康部長

さくポのメリットは自分のデータをアプリで確認できることです。横の展開は、いま始めたばかりだと私は認識しています。

## 記者

いまだのくらい広まっているのでしょうか。

## 横須賀市健康部長

申し訳ございません。把握できておりません。(注3)

(注3)「さくポ」のサービス開始から間がないことから、各医療機関への案内がこれからであり、現時点では共済病院の情報しか閲覧ができない状態です。今後さくらネット参加医療機関への案内を進め、「サクポ」で閲覧できるようになります。

## 市長

共済病院に話を聞いて、フォローします。市も推進しており医師会の先生方と一緒に行います。

## 記者

手帳は、全国医師会で全国的に普及、奨励しているということはございますか。

## 横須賀市医師会：高宮会長

先ほどお話ししました1市と1町は、柳井市は人口約3万人、阿見町は人口約5万です。横須賀市は中核市であり、横須賀がやることはかなり意味が大きいと思います。だんだんと広げていった方が良いことは間違いないのでそれも含めて実績を作りたいと思っています。

## 2 生成 AI を活用した 24 時間 365 日の相談サービス

### 市長

このたび、株式会社 ZIAI さんと連携協定を締結し、生成 AI を活用した対話型傾聴 AI を共同開発し、実装を見据えた実証実験を行っていくこととなりました。横須賀市では、これまでも、福祉の総合相談窓口の設置や、LINE 相談など、様々な相談体制の充実をはかってまいりました。しかし、人による相談には、「気軽に相談しづらい」、「相談の時間が限られて、相談したいときに相談できない」、「言語の壁があって相談ができない」、行政の立場からは、「対応する職員の数に限界があり、混雑時にお待たせしてしまう」などの課題がありました。これらの課題を解決するために、生成 AI 技術を活用します。24 時間 365 日いつでも傾聴し、相談できる AI を展開いたします。これは私が、2 年半以上前に、ChatGPT を触ったときから、是非実現したいと思い描いていたことです。対象となる相談のテーマは大きく 2 つで、福祉系の相談と、学校における、児童、生徒向けの相談です。また、生成 AI の力で、時間だけでなく、横須賀の特色でもある、言語の壁も超えます。外国籍の方も、母国語、英語で相談できる多言語対応を実現します。この AI を用いた傾聴相談の多言語対応は、全国初の試みであると聞いております。これに加え、市の職員向けの悩み相談にも活用していきます。ただし、AI による相談は、あくまで入口です。気軽に、ちょっとしたことでも、いつでも相談できる AI を入口にして、必要に応じて、職員によるサポートへとスムーズにつなげる仕組みを設けることで、全ての市民の皆さんのが孤立することなく、必要なサービスにつながることができる、すなわち、誰も一人にさせないまちの実現へとつなげていきます。機能の詳細などは、櫻井代表取締役社長から説明をいただきます。私からは以上です。

### 株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長

(デモ画面を用いて説明)

私からは具体的な機能について紹介いたします。こちらのモニターに実際に住民の方に触っていただけの画面を投影しています。住民の方は日本語と英語どちらでも相談ができますので、ご自分が希望する言語を選んでいただきます。

次に同意事項です。個人情報は書いていただきたくないため、そのあたりの話などを書いています。この後も説明しますが、生成 AI を使った悩みの相談やチャットの相談は、実際に一般の方も行われていると思います。それらとの違いとしては、我々は傾聴と共感に特化していることがポイントになっております。時間としては 30 分から 1 時間ほどです。それらの説明に同意をしていただいた上で相談に入っていただきます。

相談にあたってはニックネームを入力していただきます。自分の本名、個人情報を入力していただく必要はありません。そして性別です。もちろん答えたくない方は答えたくないというボタンを押していただき、そしてご自身の年齢、さらに属性、何をやっている方なのかを入力していただきます。ここでは、会社員とします。そして、お話をしたい内容、つまり主訴を選択すると相談ができるという内容になっております。

デモとして、どのような説明をしようかと思っていたのですが、一つ近しい相談が最近来ていたので、入力をしてどのような回答が返ってくるかを説明できればと思います。主婦の方からお話をあつたもので、「夫と会話ができない。話をしていると、『あなたの話は要領を得ない。聞いていられない』と会話をぶつたぎられる」という相談がありました。これを傾聴 AI に入れてみるとどうなるかというと、ニックネームが「テスト」なので、AI から「テストさん」と呼びかけます。「お越しいただきありがとうございます。私が担当です。よろしくお願ひいたします。それはとてもつらい状況ですね」と共感をしながら、「大切な人に自分の話を否定されると傷ついたり、孤立した気持ちになるのは当然だと思います。夫さんに相手に話したいことがうまく伝わらないとどんな気持ちになりますか、またそれをどう変えていきたいと思っていますか?」と、いわゆる巷の AI と言いますか、皆さんのが無料で使える AI との違いにもなりますが、それらにユーザーさんが求めているのは解決策だと思います。したがって、AI は情報や意見を引っ張ってきて、それを回答します。一方で、我々の悩み相談にユーザーさんが求めているものは、心を少し落ち着けたいとか、頭の中を整理したいというところが大部分となってきます。そこで我々の AI が提供しているのは傾聴や共感となっております。今は日本語でデモをさせていただきましたが、英語でも対応できることが、今回、横須賀市で初めて行う実証になります。

これを福祉と子どもの分野で住民の方に使っていただく、職員の方にも使っていただきます。我々は、AIが全てを代替すると全く思っていません。時間的な制約や心理的なもので話ができるない方、相談したらどう思われるのだろう、どう評価されるのだろうという、相手が人間だからこそいろいろと考えることを一回取っ払って、相談のハードルを極限まで下げた状態で、一回自分以外の誰かに話をしてもらう、経験を積んでもらう。練習の踏み台、相談の練習のようにAIに一回話していただいた上で、伴走支援に入ってもらいたいと思ったら行政に、子どもであったら学校現場の方に、職員であったら相談担当につないでいく仕組みを、今回、横須賀市と一緒に作っていければと思っております。私からは以上です。

## ■質疑応答

### 記者

行政につなぐときはチャット内容を見て自動的につながっていくのでしょうか。どうやって行政につながっていくのか仕組みを教えていただけますか。

### 株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長

基本的に、こちらから勝手な解釈をして、判断をしてつなぐことはやっておりません。ユーザーさん本人が、自分の意思でつながりたいと思ったら、自分の意思で個人情報を入れていただいて、個人情報を入れたことがトリガーになって、自動で連携される形になっております。本人の援助希求行動を促すために行動経済学の理論を入れており、自然に対話の中で、例えば今日だけで何人が行政につながっていると言ったら、行動経済学的には自分も個人情報を入れてみようかなとなる気持ちが少し高まるというナッジがあり、それを入れながら、希求行動を促していきます。

### 記者

もう1点、市内の方以外の方が二次元コードを読むことは可能でしょうか。

### 株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長

正直、可能です。周知の問題かなと思っていますが、行政の方とも話をしていて、難しい部分だなと思っているのが、市と接点を持っている方は、いろいろな形でいると思っています。住んでいる方以外にも、例えば学校だけ来ている方、仕事で来ている方などです。どこのラインで切るかは難しい部分があるため、周知して、これを知っている方は横須賀市と何らかの関連・接点がある方だと思います。全然違う、例えば沖縄などから相談されると困りますが、そのような線引きで行っています。

### 記者

医療機関、福祉機関につなげる際には、このような場所がありますよ、といったリンクなどを対話している中で提示するイメージで良いのでしょうか。

### 株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長

今回は、悩み相談をした上でこちらからおつなぎすることになるので、福祉の場合はここにつなぐ、子どもの場合はここにつなぐということを決めた状態でおつなぎする予定です。福祉と職員の相談については、つなぎ先が決まっているので、本人が個人情報を入れると、その決まった先に連絡が自動で届きます。

### 記者

連絡が自動で届くというのは、例えば「ほっとかん」でしたら、「ほっとかん」にメールが届くということでしょうか。

### 株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長

おっしゃるとおりです。正式に申しますと、メールアドレスを事前に設定していますので、担当者のメールにその方の個人情報と、今まで相談してくださった内容の主訴が要約されて届くとなっております。1点だけ補足ですが、子どもについては段階的に導入を進めています。特に子どもの場合は、「この人には絶対に言いたくない」ということが強い傾向があります。例えばこの悩みは親に知られたくない、この悩みは担任の先生に絶対言いたくないということが明確なため、ボタンを設定する予定です。スクールカウンセラーや、学校外の大人などです。そのボタンを押すとその方にしか知らせませんとして、秘匿性を担保した上でおつなぎしていくことを想定しています。

### 記者

今回このサービスでつながる先になっている機関はどこでしょうか。

### 横須賀市デジタル・ガバメント推進室室長

現時点で、福祉の関連に関しましては地域福祉課のメールアドレス、教育委員会に関しては、支援教育課のメールアドレスにその内容が届くようになっております。

### 記者

現時点、この実証実験では、窓口としては、その2つに届くイメージでよろしいでしょうか。

### 横須賀市デジタル・ガバメント推進室室長

おっしゃるとおりです。

### 記者

この実証実験は12月ということで、スケジュールの予定は1ヶ月、2ヶ月だと思います。どれぐらいの利用者のサンプルがとれたらという目標はございますか。

### 株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長

外国籍の方に英語で利用していただくのは、我々としても初めての経験で、どれぐらいの数字が来るのかは正直我々としても分かっておりません。具体的なKPIの何を取るかは決めていますが、何件来たらいいという基準はまだ決めていません。

### 記者

米海軍横須賀基地も対象でしょうか。

### 市長

もちろんです。様々な苦労を抱えて悩んでいる外国人の方がいらっしゃいます。そのような方にも利用していただきたい。これは基本的に傾聴です。同じく傾聴の「こころの電話」は、ずっと横須賀にありますが、応対される皆さんは本当に大変なご苦労されていて、私の仲間もたくさんやっていますが、少なくなっています。また、大空幸星さんと全国世界中で傾聴できるような仕組みを作りたいということもやりました。本当は、最終的にはAIが言葉で答えを出すところまで持っていきたいと個人的に思っています。悩み苦しい人、常に悩んでいる人たちにどういう答えを出すか、まず聞いてあげることが大切で、そこから次につながります。悩んでいる人は整理ができない、誰にも頼ることができない、そこを埋めるものがなければと思っています。私も悩みが多い人生です。例えばこのような状況に、このような哲学、このような宗教、このような何かがあったとしたら、整理できるじゃないかというものがなかったがゆえに悩む人間がいます。そういう意味では、AIだと、最先端のあらゆる頭脳を取り組んで、アルゴリズムも含めて、人間よりちゃんとした答えを、将来的には出すであろうことが予測されるし、傾聴に関しても、それはできると思います。それは、AIの方が人間を超える部分だらうと私は思います。それを担当にやらせていたのですが、ZIAIさんが同じことを考えているとのことでした。自前でやりたい、横須賀でやりたいと思っていたのですが、できなかつたのです。ZIAIさんとご縁ができたので、もっと先に進んで共同研究したいと、そのような経緯だったとご理解ください。藤沢市でも行っているそうですが、横須賀は何年も前から取り組んでいて、藤沢市のやっていることよりも、もっと限りなく人間に近いというか、「傾聴

する」というような考えを持つところを探していたら、ちょうど縁ができたので、ご一緒したということです。

#### 記者

ZIAI さんとしては、今後これをサービス化していく、ステップアップのイメージもあるのでしょうか。

#### 株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長

日本語はもうサービス化しているので、その中で今回は外国語をどのように落とし込んでいくかというところだと思います。自治体さんによっては急に外国籍の方が増えているようなまちで、問い合わせが増えている部分もあり、そういう意味で言うと、サービス化は今回の横須賀の取り組みを元に考えていきたいと思います。

#### 記者

市役所にお悩み相談で訪れる英語話者の方は多いのでしょうか。データなどありますか。

#### 横須賀市地域福祉課長

ご本人が直接来てくださるというよりは、その周りの支援者さんが、ほっとかんにつないでくださるということがあります。まだまだ件数としては多くはありません。これを契機に、外国籍の方のご相談が入ってくることを望んでいます。

#### 横須賀市教育員会事務局支援教育課長

学校教育の現場におきましては、日本語支援ステーションというものがあります、年間で大体四五件、そちらの方に相談がございます。ただ、やはり言葉の問題もありますので、なかなか相談件数が多くないような状況です。そうした視点で見ても、今回、ZIAI さんにお願いしたいと思ったところです。

#### 記者

悩みのある方が二次元コードを読み込んで、パソコンやスマホで言葉を打っていき、ZIAI 社さんは地域福祉課や支援教育課などに振り分けるということなのでしょうか。どのような役割を担うのでしょうか。

#### 株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長

相談の目的によって URL が違います。例えば、福祉の相談はここにつなぐということが決まっています。職員の相談もつなぐ先は決まっていますが、この職員の行動は外部に出ないので、外にはつなぎません。URL、入り口にひも付いて、どこにつなぐかというのを設定しています。

#### 記者

24 時間 365 日は相談する側にとってのタイミングということでおろしいでしょうか。

#### 株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長

はい。

#### 記者

担当課に相談が伝わり、答えるまでのタイムラグはどれくらいあるのでしょうか。

#### 横須賀市地域福祉課長

平日の 8 時半から 5 時までになります。相談がメールで転送がされた後に、こちらからご回答するのも最速でも開庁日の開庁時間後になります。ただ、ご相談をお受けしましたとのこちらからのリアクションは、開庁後すぐにできると考えます。

**株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長**

おそらく今回の実証でどれくらい相談が来るかが分かると思います。そうなったときに、例えば「24時間以内」、「営業日3日以内」というような、ある程度基準が出てくると思います。殺到することはないと思いますが、今は具体的にここまで回答するというようなものは設けていません。

**記者**

市長が夢見ているものは、AIが答えてくれる、会話のやりとりできるといったものですね。実際、世の中にはそのようなものがあると思います。

**市長**

ただ、それはまだ危険だと思います。命の問題ですので。どこまで精度を上げていくかというのは、実験を繰り返しながら、医者、臨床心理士、行政などに関する知見を持ったAIを作り上げて、それがそれぞれのジャンルにおいて答えることができるスーパーAIができれば、答えることができると思います。先ほどそこまで目指すべきだと話していたところです。

**記者**

このサービスは始まっているのでしょうか。

**株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長**

日本語はやっています。

**記者**

今は横須賀市以外の自治体とは連携していますか。

**株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長**

はい。例えば千葉県の柏市、兵庫県の姫路市、同じように中核市を中心に行ってています。

**記者**

具体的な導入数は挙げられますか。

**株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長**

導入数は出していません。

**記者**

牧島かれんさんが「『デジタルは人間味がないので冷たい』だなんて言うけど、本当のデジタルって温かい」と言っていたことを思い出しました。このチャットのやりとりは無期限に残るのでしょうか。

**株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長**

本人が削除すれば、削除できます。

**記者**

このチャットのやりとりが終わって、その画面を閉じたら消えてしまうのでしょうか。

**株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長**

戻ることは可能です。ご自身で消すことも可能です。

**記者**

例えば、先ほどの「ご主人とうまくいかない」とのやりとりのチャットが終わり、また翌日でも1ヶ月後でも「子どもの問題でトラブルになっています」と書き込んだときに、前段は消すか消さないかは書き込んだ人が判断をすることでしょうか。

**株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長**

新しいチャットとしてスタートするか、継続でスタートするかはその人次第です。

**記者**

スケジュールの確認ですが、今日から始まって、11月からは市内一部の小中学校、高校での実証を開始とあります。（今日から始まるものと 11月から始まるものでは）これは何か内容が変わるのでしょうか。

**株式会社 ZIAI：櫻井代表取締役社長**

内容で言うと、アルゴリズムの細かい内容は変わります。また、先ほどお話ししましたが、相談のつなぎ先が変わりますが、大枠としては同じです。

**記者**

チャットにアクセスするためにどういった周知を考えていますか。

**横須賀市教育委員会事務局支援教育課長**

実証実験をしていただく学校に、二次元コードの周知をお願いして、そこから入っていただくということを想定しています。

**記者**

外国籍の人たちへのアクセス、周知はどのように考えていらっしゃいますか。

**横須賀市教育委員会事務局支援教育課長**

同じように学校には外国籍の方が通っておりますので、学校から二次元コードでどのようなことができるかということを説明して、アクセスをしていただくという形になると思います。

**記者**

実証する学校の数はどれくらいになりますか。

**横須賀市教育委員会事務局支援教育課長**

小学校、中学校は1校ずつ、あと高校の方をどうしていくかを、いま考えているところです。

## ■案件外質疑応答

### 記者

日産に動きがあったようですが、市に何かお話はあったのでしょうか。

### 市長

特別、お話があったわけではありません。工場の一部を残して、従業員は 200 人ほど残すということだけはお聞きしているというレベルです。

### 横須賀市経済部長

日産さんから、正式にこうなりましたという発表があったわけではございません。労働組合の皆さんにいろいろご説明を始めているということは聞いています。また、昨日、新聞の記事に載っていた一部の内容にもお聞きしております。特に決まったことがありますという話はございません。

### 記者

毎年 10 月第 3 週に三笠公園で市民団体と労組が開いていたピースフェスタというものがあります。それについて、横須賀市は 40 年間、後援されてきました。ただ、チラシの文言をめぐって、内規に抵触するということで、今回は後援を見送るということですが、市長の判断はいかがでしょうか。

### 市長

私の判断です。去年もご質問いただきましたが、あらゆる平和運動という意味では、私は肯定的です。しかし、政治的中立性がないと後援できないという内規があります。確認をしたところ、トマホークの問題が出ていたため、これはいかがなものかと思い、先方に確認をして、外してもらえないかと伝えたところ、外せないということだったので、後援することをご遠慮させていただきました。公園を使うことは自由ですが、我々が後援することはできないとお伝えしました。

### 記者

主催者側は、ご存じのように湾岸戦争で米軍が使ったトマホークについて、かねてから批判的な主張をずっとしていました。その間ずっと横須賀市は後援してきましたが、この度、自衛隊が使うということで、いかがなものかと考えたということでしょうか。

### 市長

そのとおりです。

### 記者

自衛隊が使うとなったからということですね。

### 市長

それはまた別の問題だと思います。

### 記者

自衛隊・米軍は別であると。

### 市長

はい。

### 記者

海上自衛隊を抱える本市としては、そこは配慮すると。

### 市長

おっしゃるとおりです。その判断です。

**記者**

先日、残念ながら、大きい花火大会が中止になりました。これもまた米軍のいろいろな混乱、予算の抑制ということで、煽りを受けた格好です。経済的効果がかなり大きかったのかなと思いますが、その辺の見方と米海軍基地を頼った経済地域振興に問題提起したような形になっているのかと思いますが、いかがでしょうか。

**市長**

そこに基地があるのであれば利用させていただく、これは当然、共存共栄というか、私は必要なことだと思っています。ただ、まさかこういう状況になるとは夢にも思っていなかつたので、これは本当に残念でなりません。政治状況というか、政治風土が違うので、まさかこのような状況になると思っていなかつたという意味では、私たちの準備不足だったと思います。これからはないように万難を排したいと思います。例えば、10月ではなく9月に行うなど、必ずこういうことが起こるをするならば、10月前にやってしまうなど、様々なことを考えることができます。そのような勉強になつたと思います。ただ、本当に申し訳ない気持ちです。残念でならないというより、楽しみにしていた方に対して、本当に申し訳ないという気持ちでいっぱいです。

**記者**

ちなみに経済損失額は算出されていますか。

**市長**

算出はしておりません。

**横須賀市市長室長**

イベントでは、よく経済波及効果というものを出させていただいておりますが、花火大会は規模もエリアも大きすぎて実は計算できていません。ただご承知のとおり、1日で19万人の方が来られます。最近では花火大会の開始時期を早めたことによって終わってからかなり市内の飲食店に寄つていただいているような光景が見受けられますので、かなりの効果額だとは思っております。

**記者**

ピースフェスタの後援不承諾の件について、市長が前回のチラシを見た時期は、昨年終わった後なのか、いつ頃でしょうか。

**横須賀市経済部長**

おそらく、イベントの終わった直後だったと思います。

**記者**

それまではチラシは見ておらず、昨年のイベント直後に初めて担当部署から確認をしてもらったという流れだったのででしょうか。

**横須賀市経済部長**

このイベントが昨年あつたくらいの時期に、記者会見でお問い合わせがあったということを踏まえて、経済部から市長に報告し、チラシを見ていただきました。

**記者**

例えば、海上自衛隊のトマホークに賛成するという趣旨の文言があればいかがでしょうか。

**市長**

賛成とか反対という政治的なものは、私は平和運動にはないと思います。あくまで私がコメントしたとおりです。中立、あくまで中立ということをご理解いただければと思います。

**記者**

あらためて市長が考える政治的中立性とはどのようなものでしょうか。

**市長**

今のものが政治的中立だと思います。

**記者**

今回の文言は、「ここが問題」という議論を促すようなものと捉えることもできると思いますが、市民に考えてもらう場を整えるということはいかがでしょうか。

**市長**

今日発行のとある新聞にも出ていましたが、議論があるかどうかということ、是非は市民に問うものではないと思っています。議論に問うものにふさわしくないと思います。いろんな考え方があるでしょう。議会でも政治的なものがたくさんあるでしょう。一部の人たちが言って、それが全部と思われるのかおかしな話だと思います。その中で議論が行われるというのは、今ここではふさわしくないのではないかと思っています。それは国政レベルの問題だと思います。これはいつもどこでも申しあげています。

**記者**

海上自衛隊の観艦式、本来でしたら今年行われると思っていたが、今後、観艦式は止めるという発表があったと思います。3年前の国際観艦式の際には、市中パレードなど、いわゆる本番以前のイベントで市内もずいぶん盛り上がったと思います。この中止ということについて市長の感想あるいは復活してほしいなど思いはございますか。

**市長**

これも、いまお話をしたように中立という意味では、私が申しあげるところではないと思いますが、ただ、寂しいことは確かです。激変する世界情勢の中で、観艦式はいかがなものかという議論になってしまって、政治的な中立ということを考えて、いま、私がお話を申しあげることではないと思っています。ただ、まちの活性化という意味では、すごく寂しいなということは言えると思います。

**記者**

花火についてです。開催する選択肢はなかったのでしょうか。

**市長**

いろいろ考えました。やるという前提であらゆる選択肢、どこのエリアを借りて、どこのフィールドを借りてと、様々な検討・調整を担当はやり尽くし、それから警察とも協議をしました。選択肢がいくつもありましたが、やはりこれは危険だろうということになり、それで、どうしますかと言ったときに、じゃあやめようと言って私が決断しました。万が一のことを考えたら大変なことになります。簡単に決断したわけではないということはご理解ください。

**記者**

市に連絡があったのは10月2日の木曜日でしょうか。

**市長**

10月2日、木曜日の午前中です。その後、その日の午後3時頃に中止を決めました。

**記者**

開催時期の話に触っていましたが、確かもともと夏に開催していたと思うのですが、暑くて熱中症でみんな大変だということで、10月に移動したと思うのですが、これをまた夏に戻すことはありますか。

**副市長**

夏は、まだ日が高いのでフェリーが入ってくる時間と花火が終わって皆さん引き上げる時間を考えると夏にはできないのです。ある程度、秋にならないと暗くならないので、花火大会ができないということです。

**記者**

時期をまた考え直すとなった場合はどうなるのでしょうか。

**市長**

副市長たちと相談しますが、10月ではなく、ぎりぎり時期を考え直すとなると9月という選択肢しかないと思います。いろいろまた悩んで決めていきます。

**記者**

あの1万発の花火はどうなったのでしょうか。

**市長**

悲しい話ですね。それも使えないのです。花火は1回使ったら使いきりです。お金はお支払いしなくてはなりません。そして廃棄処理になると思います。業者から花火を受け取ってもいません。花火はリスクが高いです。

**記者**

天候で中止になる可能性は考えられますが、今回のような場合、補償はないのでしょうか。

**市長**

それはないです。いい知恵があったらお聞きしたいと思います。

**記者**

10月4日に川崎と東京の多摩川で花火大会があったのでそちらに寄贈いただければよかったです。

**市長**

考えたくないですが、次回、考えます。

**記者**

国会では首班指名に向けていろいろと政権が揺らいでいるような状況だと思います。今年はなかなか国会が開かれず、政治の停滞が懸念されていますが、自治体として、市長として今のお考えやどのように感じていらっしゃるか教えてください。

**市長**

何度も申しあげているとおり、私は地域主権主義者で国とは対等だと思っていますので、一刻も早く混乱を収めていただきて、地域に対して、地方に対して、しっかりと恩恵を与えられるような政策を取っていただきたいと思っています。自治体の首長としては、いつもそれを願っています。

**記者**

どなたが首相になっても、どっしりと構えているということでしょうか。

**市長**

当然です。まさに、三浦半島を一つの文化圏にしたい、経済圏にしたいという思いがあるので、これは国に対してやっていかなければならない。また、地域主権について、どなたになったとしても、伝えていきたいと思います。

**記者**

トランプ大統領も来日するのではないか、横須賀にも来るのではないかといろいろな話があります。何か感じていることはござりますか。

**市長**

私が一番始めに立候補したとき、トランプ大統領に会いたいと話をしました。全然相手にされていないようですが、これからどうなっていくのか、心配は心配です。米海軍との問題もあります。トランプ大統領が、本当に戦う集団だけにしたいという思いがあるように思います。海軍は本当に、世界を守っていくために様々なことを考えている。国防、世界を守るのではなく、戦う方向にシフトしたときに、何か影響が起きたらどうなるのかということは、すごく危惧しています。ただ、どんな状態があるが、政治がどうであろうが、現場の司令官、制服組に対して、直接の人間関係は揺らぎないものを作っていくたいという思いはあります。

**記者**

基地と共に存とずっとおっしゃっている。

**市長**

もちろんです。

**記者**

いまは一抹の不安を覚えていらっしゃるということでしょうか。

**市長**

もちろんです。どういう政治的状況になるか、それはあります。

**記者**

重複してしまいますが、日産関係で念のため確認させてください。昨日、ホンハイが追浜工場の買収を断念したという一部報道がありました。日産から何か説明や情報提供はありましたでしょうか。

**横須賀市経済部長**

日産さんに確認しましたが、日産さんから発表したものではありませんということでした。跡地の利用についても未定のままで伺っています。

**記者**

先ほどおっしゃっていたが、労組に対して経営が説明を始めたことを認識しているという理解でよろしいでしょうか。

**横須賀市経済部長**

従業員の方、労働組合に説明を始めたと聞いておりますが、跡地の活用は全く未定と聞いています。

**記者**

人数を含めて報道があったと思いますが、その点についていかがですか。

**横須賀市経済部長**

そこまで細かい数字は聞いておりません。労働組合に説明を始めますというところまでです。

**記者**

1000人など含めて具体的な数字は聞いていないということでしょうか。

**横須賀市経済部長**

具体的な数字は聞いておりません。